

歴史的風致形成建造物 指定台帳（抜粋）

指定番号	13	名称	吉川家住宅 表門及び表塀	
指定年月日	H31.3.26	所在地 (指定地)	奈良市水門町 57 番地、58 番地	
指定建造物	表門	建築年代・概要	昭和初期	木造、棟門、こけら葺
指定建造物	表塀	建築年代・概要	昭和初期	土塀、棧瓦葺、北塀と南塀からなる
位置 ・ 歴史	<p>東大寺旧境内の南西の隅にある水門町は、古くは東大寺領の一郷で、水門を構えて吉城川から水を引いたことが名前の由来となったとされる。周辺には、国指定名勝の依水園や奈良県知事公舎等があり、土塀や門の建ち並ぶ町並みが特徴的なエリアである。</p> <p>当家は、主屋、洋館、土蔵、茶室、庭園などが配される屋敷で、大正末期から昭和初期頃の建設とみられる。現所有者の父である吉川晃が昭和 27 年に購入する前は進駐軍に接收されていたと伝わる。購入時に、平屋だった主屋を二階建てに改造し、以後、住宅として使用されてきた建物で、平成 28 年には主屋を再び平屋に改造している。</p>			
建物特徴 ・ 改修履歴	<p>西面する敷地の正面中央に建つ表門は、屋根が笠型になる編笠門形式の棟門で、背面に控柱を備える。屋根はこけら葺で、棟瓦を積む。屋根を構成する棟木・垂木・鼻隠板・破風板には強いむくりを付け、柱やまぐさ等の軸部に磨丸太、扉や欄間には竹やなぐりの材を使用して、数寄屋風意匠とする。土間にはカナンボ石を敷く。良材を用いて丁寧に造られた瀟洒な門である。</p> <p>表塀は表門の両脇に接続する土塀で、基礎はカナンボ石積みとし、棧瓦葺の屋根をつける。当初は漆喰塗りであったとみられるが、昭和 30 年代に塗り替えられており、正面側は鉢巻部分を除いてリシン仕上げとなっている。表門や土蔵とともに美しい景観を作る。 (修理) 昭和 30 年代に塀を塗替。</p> <p>平成 30 年度 門の屋根葺替。塀の外壁塗り替え。瓦一部補修。</p>			
活用	屋敷は住居として使用し、門及び塀はこのエリアの景観を維持するために保存。			
価値	名勝奈良公園内に位置する近代和風建築の屋敷を構成する門と塀で、このエリアの特徴的な景観を形成する建物として奈良公園にみる歴史的風致の維持に寄与する。			



